

竜王南小学校 学校関係者評価書（前期）

平成21年7月31日（金）

竜王南小学校学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：平成21年7月21日（火）午後6時～7時30分

会場：竜王南小学校 会議室

参加者：学校関係者評価委員及び学校職員

* 学校評議員

中島三郎 長坂光彦 小林みち子 江口早百合(欠席)

* P T A 役員（正副会長）

会長：大木弘一 副会長：長谷川正子 奥山博美 北川原美智(欠席)

* 学校職員

校長：千野文雄 教頭：石丸洋一 教務主任：秋山均 生徒指導主任：西川孝雄

学校側から提案された内容

- (1) 教育目標にかかわる学校全体の取組と児童の学校生活での様子について（全体的な特徴）
- (2) 学校職員の自己評価結果について（達成状況と改善策）
 - 学校経営と運営について
 - 学習指導について
 - 生徒指導について
 - 家庭及び地域との連携について
 - 学校の特色について
- (3) 児童のアンケート結果について（全体的な特徴）

協議された主な内容

- (1) 学校経営及び運営について
 - ・学校評価制度が、学校経営や教育活動の全体にかかわって、よりよいものとして機能していることが見受けられる。
 - ・本校では、平成20年度末の人事異動に伴って、教職員の約3割の転出入となったが、学校経営や教育活動全体について概ね良好であると同える。
- (2) 学習指導について
 - ・他県などでは、児童の可能性を引き延ばす取組の一つとして、教師の手助けをという学習ボランティアという体制があるが、本校でもこのような外部人材の指導（支援）体制のシステムが校内に構築できないだろうか。
- (3) 生徒指導について
 - ・児童と先生が、芝生の校庭で一緒に遊んでいる光景を、今年もよく見かける。一緒に遊ぶということがとても大事である。
 - ・先生が児童を注意（叱る）することは大切なことであるが、児童と先生とのよりよいコミュニケーションを築くことができる一つの方法として、どんな小さなことでも褒めてやることも必要である。
 - ・児童の指導上等での諸問題は、今も以前も変わらず起こっている。起こったことの問題を処理することだけに努めればよいというものではない。日ごろの指導の在り方や学校の指導体制を絶えず見直すなど、きめ細かな指導が行える組織づくりを進めることが大切である。
- (4) 保護者及び地域住民との連携について
 - ・児童の登下校時には、児童への「安全と安心」にかかわる活動をとおして、日ごろから「あいさつ運動」への協力をいただいている。
 - ・地域との連携については、P T A 活動の一層の充実が望まれる。
- (5) その他
 - ・評価制度というものが、社会のあらゆる場面で見受けられるようになってきた。社会全てのことが厳しい状況にあることから、教育現場も全てを行うことは、教育という機能に無理が生じる。
 - ・児童の生活のサイクルで必要なことは、「早寝・早起き・朝ごはん」という時間が大切である。

全体評価

学校関係者評価委員会では、竜王南小学校の日ごろの教育活動等の自己点検・自己評価の結果をまとめた評価書等を参考にしながら、本委員会での協議などを通し、よりよい学校改善が適切に行われるようにすることを目的として、この会議が重要であることを委員として再認識している。

については、学校評価委員会の委員の一人として、今回の自己評価結果等の報告を受け、よりよい学校改善への方向性やその取組への評価を正当に行うことに努めたい。

本校においても一昨年度から校内において、学校評価システムの体制が構築されているという説明を受けた。そのことから、教職員一人ひとりが、日ごろの教育活動と照らし合わせて、その達成基準を判断されていると感じる。このことは、ここ数年間の から までの各項目のAとBの比率を比較した場合に、自己評価の客観性が高められつつあるのではないかと察する。

そこで、全体的な見地としては、教育活動その他の学校運営全体については概ね良好であると見受けられる。また、平成20年度末の人事異動に伴って、教職員の約3割の転出入となったが、教職員一人ひとりがそれぞれの持ち味によって、教育目標の実現に向けて取り組んでいることが伺われる。

このことは、 から の全項目においてA又はB評価の肯定的な評価となっていることが、竜王南小学校の日ごろの教育活動の全体的な評価が概ね良好であるという理由になる。

しかし、詳細に評価内容を判断すると、Cの少数意見を受け止めることも必要である。

次に、自己評価書にも記されていたが、児童アンケートの全校集計結果の児童の学校生活にかかわることから、その一つとして「学校が楽しいですか」という問いに、全校児童の多数が「とても楽しい(54.7%)」、あるいは「楽しい(32.9%)」と回答しており、学校生活を肯定的にとらえていることが伺える。しかし、中学年や高学年になるにつれ、学習面での向上心や生活面での約束ごと、また日常的な挨拶というようなことについて、概ね良好とは言えるが向上心での課題がある。また、「こまったことがあったら、相談できる先生がいますか」という項目に対し、全校児童でみると「あまりいない(35.6%)」「いない(16.4%)」と答えており、学年が進むにつれ増えている。このことは、自己評価結果からも課題として受け止める必要があると思われる。

竜王南小学校の学校改善は、児童の教育にとって何が最善であるか、教職員一人ひとりが客観的な基準をもって判断し、評価と学校改善へとつなげてもらいたい。そこで、学校関係者評価委員会も公正な立場で判断し評価して、竜王南小学校の日ごろの教育活動を、次への改善へとやる気を高めていけるよう、本委員会が応援団的な役割を担うことができればと思う。

特 徴

教職員一人ひとりが、学校経営方針を理解し、教育活動計画に基づき実践が行われていることを、項目 の概ね良好の結果から伺える。また、保護者等への日ごろの教育活動の情報発信としての学校だより(学校長発行)・各学年だより等による広報への顕著な取組も伺える。

今後の課題として意識されたいこと

特に4年以上の児童アンケートから、授業はわかるが、自らの積極的な授業への取組がやや低いので、学習活動指導における基礎・基本の定着及び個に応じた授業展開に一層取り組んで欲しい。

生徒指導面では、児童の規範意識の指導と生き方教育について今後益々必要になる。そこで、日ごろから教職員の指導組織を一層整え、教職員のみならず、家庭・地域との情報連携と行動連携が一層図られることを望む。

特記事項

本委員会は、学校からの自己評価書の提示及び説明等を受け、客観性や妥当性を遵守し、協議を行った。学校側からの説明でも触れられたが、教職員の一人ひとりが自己の教育活動と照らし合わせて概ねの一定基準で自己点検・自己評価が実施されているように見受けられる。

そこで、本委員会においても多くの情報を集積し、委員会としての統一した評価が下せるよう、委員間の意見や判断の調整等がより必要になると感じる。評価の客観性がもてるように竜王南小学校の教育活動等の観察結果や学校との情報交換などを参考にしながら、学校関係者評価委員会として、学校の姿を的確にとらえ、学校改善への方向性が示せるよう努力したい。

記載責任者(竜王南小学校 学校関係者評価委員会)PTA会長 大木弘一